

日末校下のまいぶんマニュアル

☆☆日末校下ってこんなところ！☆☆

地形／日末校下の大半は、日本海沿岸の砂丘にあります。

この砂丘は縄文時代におこった海面の上昇と低下によってできたもので、

平地・山地に比べて遺跡は少ないですが、「北陸道（安宅駅）」や「安宅湊」など交通の

要衝として栄えたことが、物資の流れや古い文献から読み取れます。佐美町の一部は加賀市方面に続く台地（橋立台地）となっていて、縄文土器や石器が採集されたと伝わります。

ぜひ授業で
紹介してほしい
ポイント！



地形の説明

年表に登場する遺跡／日末(瓦)窯（日末町・松崎町）

おもな時代は江戸時代。教科書の小単元は「江戸幕府と政治の安定」。

ポイント①＝小松城や金沢城、富山県高岡市の^{まえだとしながぼしよ}前田利長墓所で使われた「いぶし瓦」を焼いていた窯跡。

ポイント②＝西暦1600～1650年くらいの時期に、屋根にふく瓦のほか、壁などの舗装に使う^{せんかわら}塼瓦（レンガやタイルに似たもの）も焼かれました。

ポイント③＝窯跡があった場所は串川沿いでした。当時は舟で今江潟から安宅湊を経由して日本海へ出られたため、瓦の出荷は水路でおこなわれた可能性が高いです。



日末窯出土の瓦



日末校下の遺跡

遺跡の位置